

高速・安全に、そして安価に大容量のデータを転送する 新サービスが登場

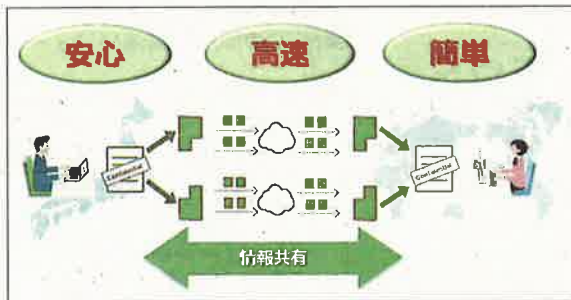
日立システムズエンジニアリングサービス

経済のグローバル化にともなって、海外に生産拠点を設ける日本企業が増えてきている。そうした企業の多くは、製品の設計や研究開発などの部門は国内に維持して、生産に必要な設計図面データなどを海外とやり取りしている。しかし、通信インフラが整っていない海外とのデータ転送には、多くの問題がある。例えば、CADやCAMなどの設計データはサイズが大きいために、ファイルを送受信するにも時間と手間がかかる。通信回線の不安定な地域では、数十メガバイトのファイルの送信に数時間もかかったうえ、失敗することもある。中には、IT要員が不在な海外拠点もあり、こうした工数がかかる作業を開発者が本業以外で行うため負担がかかっていた。さらに、国や地域によっては暗号化した添付ファイルを送ることができず、通信の安全性が担保されないままデータが送られることもあった。こうしたグローバル間でのデータ転送の問題を解決するために、日立システムズエンジニアリングサービス（本社：神奈川県、代表取締役 取締役社長：帆足明典）は日立システムズと連携し、「グローバルセキュアデータ転送サービス」という新たなデータ転送サービスの提供を開始した。

複数のテクノロジーを組み合わせ 画期的なセキュア転送サービスを実現

「グローバルセキュアデータ転送サービス」は、グローバル間における大容量の機密情報の転送を、高速・安全に低コストで実現できるサービスだ。その基本的な仕組みは、データを送受信する最低2台のPCに専用のアプリケーションをインストールするだけ。専用アプリケーションは、メールを送信するような簡単操作で、契約したIDに対して文面と添付ファイルを指定するだけで、大容量のファイルを送信できる。添付されたファイルは、ZenmuTech社（ゼンムテック）の「秘密分散ソリューションZEN

MU」により解読不可能な断片情報に分散され、一時的に無意味化される。さらに、日立システムズグループの高速転送技術によってネットワーク体系に合わせ、より最適なパケットに細分化された状態で、複数のパブリッククラウドを経由し高速に転送する。仮に一部のデータが盗まれても、すべてのデータが集まらなければ復元することはできない。転送が完了すると、あらかじめ登録しておいたメールアドレスにデータ受信の連絡が届く。受信者はPCを立ち上げるだけで、細分化されたデータはPC内で元の状態に復元される。データの無意味化や細分化、復元などは、すべて専用アプリケーションが自動的に処理するので、利



グローバルセキュアデータ転送サービス概要図

用者はボタン操作一つで大容量ファイルを送受信することができる。

国内からもVPNの代わりになると注目度が高まる

10月1日からサービスの販売を開始した本サービス。シンプルでコストパフォーマンスに優れ、なおかつ安全性の高いデータ転送の技術に注目して、グローバル企業だけではなく国内での利用を検討する企業からの問い合わせも増えている。その代表的なケースが、これまでVPN（仮想プライベートネットワーク）技術を使って、社外から社内ファイルサーバーなどにアクセスしていたユーザーだ。VPNによるファイル転送に比べて「グローバルセキュアデータ転送サービス」ならば、より低コストで安全かつシンプルな操作で、機密情報をやり取りできる。

従来からある暗号化などのセキュリティ対策は、いわば公道を現金輸送車で走るような技術なので、輸送車ごと盗まれてしまうと情報が漏れる心配があった。それに対して「無意味化」と「細分化」を組み合わせたデータ転送の仕組みは、大きなデータの塊をバラバラにして、小型のトラックで輸送するようなイメージだ。

もしも、途中でトラックの一台がハッキングされてデータが盗まれても、個々の「断片」は意味を持たないので、情報が漏えいする心配がない。なおかつ、個々の断片を輸送するコストも低く抑えられる。こうした理由から、グローバル企業だけではなく、国内も含めた新たな企業間や拠点間でのセキュアな大容量データ転送のインフラとして、「グローバルセキュアデータ転送サービス」に注目が集まっている。